

今、静かなブームを生んでいる“山川彌千枝”って？  
大正～昭和初期、短い時間を駆け抜けを天才少女の遺稿集  
「薔薇は生きてる」を島田歌穂主演で舞台化！

音楽

ミュージカル

朗読劇

# 薔薇は生きてる

歌・朗読

島田歌穂



原作 山川彌千枝

作詞作曲 小椋 佳

2012年9月28日(金) 19時開演  
(18時30分開場)

○送迎車運行/JR長与駅口一タリ一発 18時～19時まで随時運行

長与町民文化ホール

【お問い合わせ】長与町教育委員会 生涯学習課文化振興班  
TEL 095-883-1111

チケット料金 未就学児のご入場は出来ません

一般 2,500円/高校生以下 1,000円  
(当日 一般3,000円/高校生以下 1,500円)  
全席自由・税込

チケットのお求め

長与町教育委員会生涯学習課、長与町民文化ホール、  
長与町公民館、上長与地区公民館、高田地区公民館、  
長与北部地区多目的研修集会施設、長与町働く婦人の家、  
長与町ふれあいセンター、長与南交流センター、  
浜屋プレイガイド、くさの書店(西友道の尾店)

発売日 2012年6月29日(金)

主催：オー・サーブル/長与町教育委員会

後援：NBC長崎放送/KTNテレビ長崎/NCC長崎文化放送/NIB長崎国際テレビ/長崎新聞社/FM長崎

シアトリカル  
コンサート

# 薔薇は生きてる

ミュージカル  
2012年新春の話題作・音楽朗読劇「薔薇は生きてる」が早くも再演！

小椋佳が全13曲を作詞作曲。山川彌千枝×島田歌穂×小椋佳による感動を、再びあなたに！

大正時代を生きた少女・山川彌千枝による原作は、8歳から結核で亡くなる16歳までに書いた日記や短歌、書簡などを編纂したものです。当時不治の病であった結核を患い夭逝した少女が書いたとは思えない、キラキラとした生の息吹きに満ちた文章の数々。明るく活発で読書家、ちょっとわがままで、でも日記でこっそり反省していたり…そんな彼女に、読む人すべての心がキュンと動かされることでしょう。彼女が亡くなった後、遺稿集として編まれた「薔薇は生きている」は当時のベストセラーとなり、川端康成、武者小路実篤、菊池寛らから高い評価を受けました。最近では2008年の復刊を読んだ川上未映子さんや緒川たまきさんも大絶賛。

“どこまでも空を見ながら駆けていった、  
なんていいきもち、でもゆめだった”

“窓ぎわで見た空のひろさ、ああ私は空の全部が見たい”

“美しいばら さわって見る、  
つやつやとつめたかった。ばらは生きてる”

この歌を読む者は無意識のうちに『つめたかった』の背後に  
<私>の指の温もりを感受するのだと思う。  
「ばらは生きてる」とは「<私>は生きてる」の痛切な裏返しなのである。  
穂村弘 (歌人)

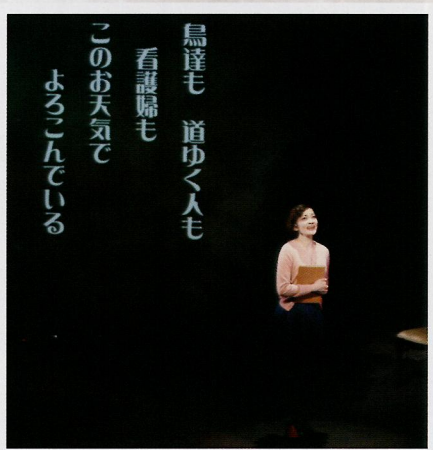
繊細で精密だけれど、  
神経過敏な折れやすさとは無縁の、勁くてよく摸る文、  
ほっとけばどこまでも伸びていきそうな言葉なのです。  
千野帽子 (文筆家)



原作：山川彌千枝 構成演出：砂田 晋平  
作詞作曲：小椋 佳 企画：山川 泉

出演：島田歌穂  
(歌・朗読)

演奏：松田真樹 (鍵盤ハーモニカ)  
徳永友美 (バイオリン)



初演アンケートより

- 美しい純粋な少女の気持ちとそれにぴったりの曲。心に訴えるものがありました。朗読も歌も本当によかったです。
- 朗読もお芝居も歌もすばらしい舞台でした。シンプルなだけに集中できる良い作品だと思います。
- やちえさんの詩、お母さんの日記、とても素晴らしいです。きれいで上手なかほさんの歌のような語りど歌で、とても情感たっぷり伝わりました。